

作物名：りんご

病害虫名：モモシンクイガ（学名：*Carposina sasakii*）

### 1 被害の特徴と診断のポイント

- ・果実表面に産卵し，幼虫は果実に食入する。
- ・幼虫の食入孔は針穴程度で，食入孔から液汁が出て乾くと果面状に白く残る。食入後，果芯へ向かうものと果皮近くを蛇行するものがあり，蛇行するものはスモモヒメシンクイの被害と類似する。

### 2 発生生態及び発生好適条件

- ・成虫の発生は年1～2回で，6月下旬から9月上旬まで連続的に出現する。6～7月が低温の場合は，年1回発生が多い。
- ・毛羽だった面やくぼみに産卵する習性をもつ。リンゴでは主にごくあ部に産卵し，こうあ部にも産卵する。モモでは果面全体に産卵する。
- ・産卵は夜間に行い，日最低気温が15℃以上の日が続くと連続的な産卵時期になる。夜温が低いと活動しなくなる。
- ・産卵後7～10日で孵化した幼虫は果実に食入し，20日程度経過すると果実から脱出して地表に落下する。休眠しない幼虫（年2回発生系統）は土中で夏まゆを作り，10～15日で羽化する。休眠幼虫（年1回及び2回発生系統）は地中に冬まゆ態として越冬し，5月頃地表近くに移動して夏まゆを作り蛹化し，6月頃羽化する。

### 3 防除方法

- ・成虫発生の6月下旬以降に定期的に薬剤防除を行い，発生を抑制する。
- ・交信攪乱剤（コンフューザー）を利用し，発生を防ぐ。
- ・有袋栽培で果実への産卵を防ぐ。
- ・成虫羽化期に地表面散布を行う。
- ・多発時には被害果を摘み取り，7日以上水漬けにして幼虫を殺し，次世代・翌年の発生を防ぐ。

### 4 その他

- ・県内の産卵盛期の平年値は6月第4半旬である。
- ・交信攪乱剤の利用が進んでいる。

### 5 出典

- (1)参考文献：ひと目でわかる果樹の病害虫 第三巻（日本植物防疫協会）  
農業総論 病害虫防除・資材編5（農文協）  
日本農業害虫大事典（全国農村教育協会）